

「『いのち輝く未来社会』をめざすビジョン」推進のための
「10歳若返り」ワークショップ（第4回）意見交換資料



「多様な活躍を支える精神的健康」
「健康作りと地域の役割」
「自立した生活」

大阪大学大学院人間科学研究科
臨床死生学・老年行動学研究分野
教授 佐藤真一

多様な活躍を支える精神的健康

- NPO法人大阪府高齢者大学校
- 一般社団法人日本色彩環境福祉協会
- 認知症の人が幸せになるロボット



NPO法人大阪府高齢者大学校

2018創立10周年 “未来への挑戦”

認定 NPO 法人 大阪府高齢者大学校

受講生募集

平成30年度



初めての方便先入学あり

年齢・居住制限なし



豊富な講座 67 科目



高大ホームページで申し込みができます

<https://osaka-koudai.or.jp/>

大阪府高齢者大学校 検索

認定 NPO 法人 大阪府高齢者大学校

TEL 06-6360-4400

協賛：大阪府

後援：大阪市・堺市



NPO法人大阪府高齢者大学校

大阪府知事からのメッセージ

大阪府知事 松井 一郎

大阪府高齢者大学校は、平成 21 年度にシニアの皆様が自らの力でNPO法人を立ち上げられたもので、全国に先駆けた高齢者による高齢者のための大学校です。

創設から 10 年目を迎える平成 30 年度は、67 教科、2,800 名強の受講生を予定される等、年々規模を拡大され、これまでの皆様のご努力に対し、心から敬意を表します。

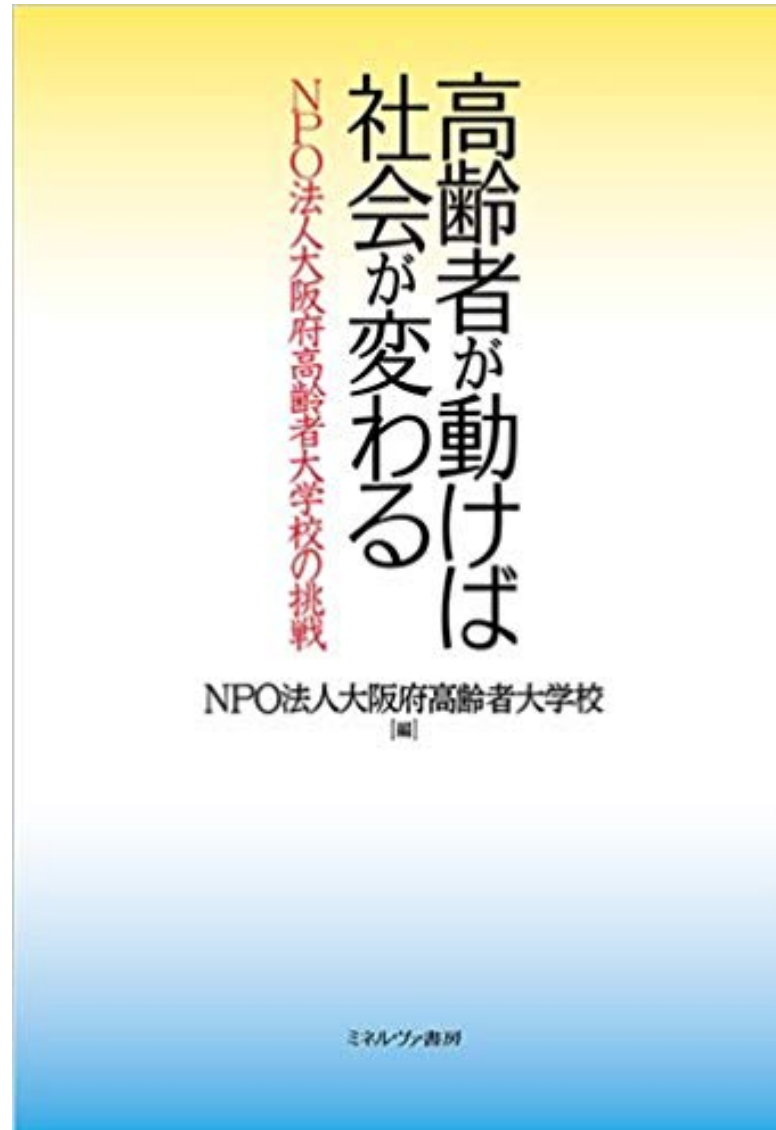
さて、今後、大阪では、急速に高齢化が進むことが予測され、地域における支え合いの仕組みをつくっていくことがますます重要となっております。

また、現在大阪府では、国・経済界と一体となって 2025 年万国博覧会の誘致をめざしています。シニアの皆様が生き生きと活躍する社会は、万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の基盤を支える重要なものと考えており、地域福祉の担い手・支え手として、アクティブシニアの方々への期待はますます高まっています。

貴大学校は、これまでも地域づくりの担い手になりうる人材を輩出していただいておりますが、さらにこうした視点を強めていただき、地域づくりの一翼を担うシニア人材の育成機関として、全国の高齢者大学のモデルとなっていただきますよう、心から期待いたしております。

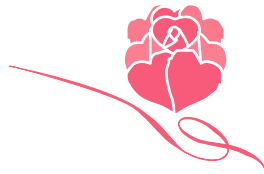


NPO法人大阪府高齢者大学校の挑戦



色彩による 「しあわせな環境」づくりの 可能性

療養環境における色彩福祉



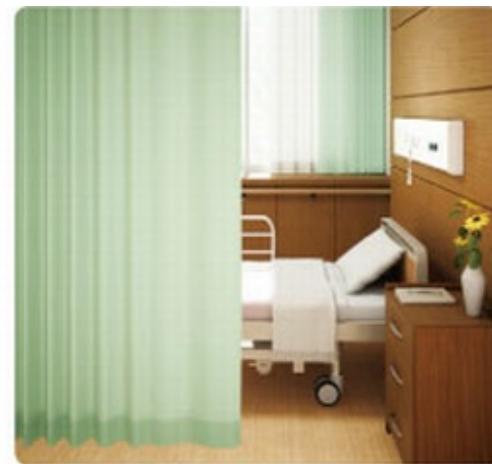
一般社団法人日本色彩環境福祉協会



●療養環境における色彩

●休息に向く色と
活気づける色がある

●急性期に必要な緑



一般社団法人日本色彩環境福祉協会



●療養環境における色彩

●安定期、長期療養時に必要な自宅のような居住空間らしさ



一般社団法人日本色彩環境福協会

●療養環境における色彩

●配色調和で統一感を演出する

●アンダートーンがそろっている



●アンダートーンがそろっていない



●療養環境における色彩

●浴室にも楽しさを



一般社団法人日本色彩環境福協会

テレノイド

「認知症の人が幸せになるロボット」

大阪大学石黒浩教授・ATRとの共同研究



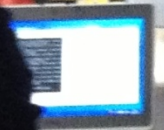


Two men are standing in a room. The man on the left is wearing a blue and dark blue jacket and glasses. The man on the right is wearing a dark jacket and glasses, and is smiling broadly. They are holding a white, headless humanoid robot torso.

A white, headless humanoid robot torso is being held by the man on the right. The robot has a circular array of small holes on its chest and is positioned in the center of the frame.



Several sheets of paper, possibly notices or schedules, are pinned to the wall on the right side of the image. They contain text and some diagrams, but the details are not clearly legible.



テレノイドの特徴 遠隔コミュニケーション

遠く



Internet

近く



二者場面による対話



アルツハイマー型認知症中等度の95歳女性 テレノイドに読み聞かせができた！





Can We Talk through a Robot As if Face-to-Face? Long-Term Fieldwork Using Teleoperated Robot for Seniors with Alzheimer's Disease

Kaiko Kuwamura^{1,2,*}, *Shuichi Nishio*² and *Shinichi Sato*³

¹Graduate School of Engineering Science, Osaka University, Osaka, Japan, ²Hiroshi Ishiguro Laboratory, Advanced Telecommunications Research Institute International, Kaihanna Science City, Kyoto, Japan, ³Graduate School of Human Sciences, Osaka University, Osaka, Japan

This work presents a case study on fieldwork in a group home for the elderly with dementia using a teleoperated robot called Telenoid. We compared Telenoid-mediated and face-to-face conditions with three residents with Alzheimer's disease (AD). The result indicates that two of the three residents with moderate AD showed a positive reaction to Telenoid. Both became less nervous while communicating with Telenoid from the time they were first introduced to it. Moreover, they started to use more body gestures in the face-to-face condition and more physical interactions in the Telenoid-mediated condition. In this work, we present all the results and discuss the possibilities of using Telenoid as a tool to provide opportunities for seniors to communicate over the long term.

Keywords: elderly care robot, teleoperated robot, Alzheimer's disease, elderly care facility, gerontology

OPEN ACCESS

Edited by:

Stefan Kopp,
Bielefeld University, Germany

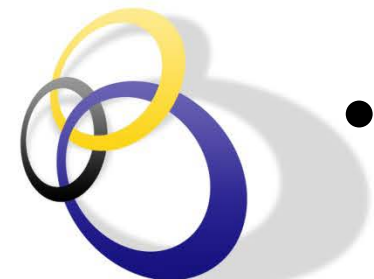
Reviewed by:

Kirsten Bergmann,
Bielefeld University, Germany

Karola Pitsch,
University of Duisburg-Essen, Germany

健康づくりと地域の役割

- 福祉住環境サミット
- 大阪大学SSIプロジェクト
(社会ソリューションイニシアチブ)
- 哲学カフェとがんサロン
- 地域包括支援センター職員手引き



誰もが、いつまでも自分らしく暮らし続ける為に
福祉住環境のプロが日本の福祉住環境を考える

開催

第一回 福祉住環境サミット

専用HP <http://www.fj-s.net>

専用Facebook <https://www.facebook.com/fjs.net>

開催日時 2014年 3月 15日 (土) 12:30~17:30
16日 (日) 10:00~17:00

開催場所 大阪大学豊中キャンパス
大阪府豊中市待兼山町1-1

参加費 日¥4,000. (学生無料)

プログラム：一部 基調講演 1 (仮題)「上手な老い方、住まい方」
(15日) 東京家政大学名誉教授 樋口 恵子 氏
基調講演 2「今後の日本における、福祉住環境整備の役割と必要性」
厚労省福祉用具・住宅改修指導官 宮永 敬市 氏
基調講演 3「認知症「不可解な行動」には理由がある」
大阪大学大学院人間科学研究科教授 佐藤 眞一 氏
二部 福祉住環境サミット (登壇者は、裏面をご参照下さい。)
(テーマ)「今、日本の福祉住環境に求められていること」

★ 交流会 (*参加費とは別に交流会費が必要です。) 18:00~20:00 企業 PR ブース併設

プログラム：分科会 第一分科会 まちづくり部門 (地域福祉の取組み・タウンモビリティ他)
(16日) 第二分科会 住環境整備部門 (疾病別事例・介護保険住宅改修他)
第三分科会 住宅・福祉用具部門 (福祉用具・地域密着サービス・障害者住宅他)
第四分科会 施設・集合住宅部門 (長期優良住宅・サービス付き高齢者住宅他)
第五分科会 いぎいき健康部門 (老年学・生きがい創出・高齢者食材他)
第六分科会 展示部門 (企業ブース・書籍展示・地域団体パネル展)

お問い合わせ先：06-6840-6878 (NPO 法人ラブとよネット)

〒560-0032 大阪府豊中市蛸池東町 2-7-2 (総合事務局) アドレス:office@fj-s.net

主催：NPO 法人生活・福祉環境づくり21・福祉住環境コーディネーター協会・NPO 法人ユニバーサルデザイン推進協会
共催：大阪大学老年学研究会・福祉住環境ネットワーク会議・NPO 法人ラブとよネット
後援：東京商工会議所・大阪商工会議所・豊中市・豊中市社会福祉協議会・社会福祉法人大阪府社会福祉事業団・一般財団法人高齢者住宅財団・一般社団法人日本福祉用具供給協会・一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会・公益財団法人テクノエイド協会・一般社団法人住宅リフォーム推進協議会・公益社団法人大阪府理学療法士会・一般社団法人大阪府作業療法士会・NPO 法人高齢社会をよくする女性の会・高齢社会 NGO 連携協議会・日本応用老年学会・NPO 法人福祉・住環境人材開発センター・一般社団法人日本認知症コミュニケーション協議会・豊中商工会議所



第5回福祉住環境サミット



みんなで考えよう、未来の日本!!
10年後の暮らしは、今の延長線上には無い



2018. 3.17 (SAT) 18 (SUN)

13:00(12:00受付開始)~17:45

10:00~16:45

*住生活コーディネーターワークショップ発表会、同時開催(無料)

開催 | 大阪大学 (豊中キャンパス)

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町
阪急宝塚線 石橋駅より東へ徒歩15分
大阪モノレール 柴原駅より徒歩10分

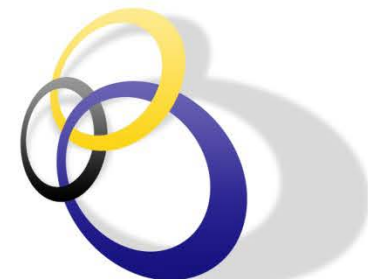
インターネットでの
お申込みはコチラ

登録料 | ¥4,000 (共催・後援団体所属の皆さん: ¥3,000.) 75歳以上、学生無料

[主 催] 一般社団法人福祉住環境アソシエーション(愛称:WeLAウィーラ)/特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン推進協会(福祉住環境サミット事務局)
[共 催] 福祉住環境コーディネーター協会、大阪大学老年学研究会、日本応用老年学会、一般社団法人日本色彩環境福祉協会、特定非営利活動法人ラブとよネット



【お問合せ】(一社)福祉住環境アソシエーション 〒560-0026大阪府豊中市玉井町3丁目3番1号 Tel.06-6844-1279/E-mail. wela@u-bappu.jp



第1回

ウェルビーイング

WELL BEING

フェア

& 第3回 福祉住環境サミット

無料展示 第1回 ウェルビーイングフェア

ウェルビーイングフェアでは、シニア層をはじめ、あらゆる年代の人々が元気でいきいきと暮らすための「商品」や「サービス」を、企業・団体・行政が一堂に会して幅広く紹介します。一般の皆様、また関連業界の方を対象に、日常生活はもちろん、介護・建築・医療・福祉の現場などでも役に立つ、最新の情報を提供します。(約40企業が出展予定) ウェルビーイングをテーマとした国内初の総合フェアに、ぜひご来場ください。

ウェルビーイングとは・・・

誰もが自分らしく心身ともに安寧で、幸福であると感じながら社会の中で生きていけること。介護などが中心の狭義の福祉(Social-welfare)から、より広義の福祉(Well-being)を意味します。

有料セミナー 第3回 福祉住環境サミット

福祉住環境サミットでは、誰もが、いつまでも自分らしく暮らし続けるために福祉住環境のプロが日本の福祉住環境を考えます。基調講演やパネルディスカッションなどを通し、福祉住環境に関する知識や最先端の情報、分野を超えた新たな交流が得られます。参加希望の方は、参加登録申込書(別紙)か、HP (<http://www.fj-s.net>) をご覧ください。

登録料 5,000円



2016年3月5日(土) 10:00~18:00 明治学院大学 白金キャンパス 入場無料
2016年3月6日(日) 10:00~16:00 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

お問い合わせ先 → 一般社団法人 福祉住環境アソシエーション
TEL: 03-6868-3744 E-mail: wela@u-bappu.jp HP: <http://www.fj-s.net/>

主催:(一社)福祉住環境アソシエーション(福祉住環境サミット&ウェルビーイングフェア総合事務局)
共催:NPO法人ユニバーサルデザイン推進協会、NPO法人生活・福祉環境づくり21、福祉住環境コーディネーター協会、日本応用老年学会、大阪大学老年学研究会、NPO法人ラブとよネット、(一社)日本色彩環境福祉協会
後援:田文省/厚労省/内閣府/経産省(予定)/港区(予定)/社会福祉法人港区社会福祉協議会(予定)/東京商工会議所/公益社団法人日本理学療法士協会/一般財団法人高齢者住宅財団/一般社団法人日本福祉用具供給協会/一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会/公益財団法人テックエフ協会/一般社団法人住宅リフォーム推進協議会/NPO法人高齢社会をよくなる女性の会/NPO法人福祉・住環境人材開発センター/一般社団法人日本認知症コミュニケーション協議会/NPO法人ケアアフォーラムシステム研究会/NPO法人産学連携学会



OSAKA UNIVERSITY

SSI新プロジェクト提案

地域住民の死生観と健康自律を 支える超高齢社会創生のための 文理融合プロジェクト

佐藤 眞一 (人間科学研究科教授)

土岐 博 (核物理研究センター名誉教授・産学共創本部特任教授)

山川みやえ (医学系研究科保健学専攻准教授)

鈴木径一郎 (産学共創本部・COデザインセンター特任助教)

生と死と、 命と

超 高齢社会の多様性

2018.6.25 Mon. 18:00-21:00

@豊中キャンパス・大阪大学会館2階 SSI豊中ラウンジ

●参加費:軽食代1000円 ●定員:先着20名

大阪大学は、日本や世界が直面する様々な社会課題に対して解決方法を提示し、さらに学問的にも真理を追究するためのシンクタンクとして「社会ソリューションイニシアティブ (SSI)」を始動させました。SSIは「命を大切に、一人一人が輝く社会」を目指し、定期的にSSIサロンを開催して、喫緊の社会課題について研究者や実践家や学生の皆様とともに考えてまいります。記念すべき第1回は、2018年度のSSI協力プロジェクト「地域住民の死生観と健康自律を支える超高齢社会創生のための文理融合プロジェクト」の実践・研究成果を基として開催されるものです。

趣旨

戦後の経済発展の期間、我が国は「少死社会」でした。年間死者数が現在の約半分程度の時代が20年以上も続いたため、老いと死は徐々に離れたものになっていきました。死は、難病に冒された人々にもみ自覚されていた時代だったのかもしれませんが、それによって進んだ著しい高齢化の後に、年間死亡者数は急激に増加し、「多死社会」である超高齢社会に至りました。老いと死は、再び近づいてきました。健康増進や長寿化の進行一方で、認知症者の増加、急性期疾患と慢性期疾患の複合化、障がい者の長寿化など、老いと死の多様性も高まりました。超高齢社会の生と死と、そして命について、改めて考えたいと思います。

プログラム

- 18:00 開会挨拶 堂目卓生 SSI長・経済学研究科教授
- 18:10 話題提供 山川みゆえ 医学系研究科准教授
 「くらしの中の認知症 ～認知症のある人の生活と社会資源～」
 神出計 医学系研究科教授
 「私の考えるsuccessful deathとは」
 佐藤眞一 人間科学研究科教授
 「老年学と死生学 ～後半生のライフイベントから得る英知～」
 堂目卓生 (前掲)
 「『社会的弱者』と向き合うことによる人間の解放 ～ジャン・パニエの思想と実践～」
- 19:40 ディスカッション(飲み物・軽食を取りながら)



哲学カフェ



市民サロンや訪問看護ステーション、お寺と共同実施

- 何となく不思議に思っていること
- 戦争体験の語り
- 死ぬということに対しての思い

ゆっくりかんがえる 哲学カフェ



「生と死」

5月31日(木) 18:30~20:00

場 所：豊中市市民活動情報サロン

(阪急豊中駅北改札口前 06-6152-2212)

カフェマスター：鈴木 径一郎さん (大阪大学共創機構 特任助教)

世話人：佐藤 眞一さん (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

箕面がんサロン

がんを告げられた方とご家族を対象にした「箕面がんサロン」を定期的に開催しています。

 **I FOR YOU JAPAN**

箕面市NPO条例登録団体
箕面市社会福祉協議会ボランティアセンター所属団体



「病気の悩みを話せる相手がない」

「家族にも話せないことがある」

「家族としてどう接するべきか？」

・・・など、人により様々な悩みをお持ちです。

同じ悩みをもつ、参加者や経験豊富なスタッフと

対 象

がんを告げられた本人またはその家族

日 時

毎月第3日曜: 13:20~16:20
(いつでも入退室は自由です)

参加費

無料(参加される方は下記の方法でお申し込みください)

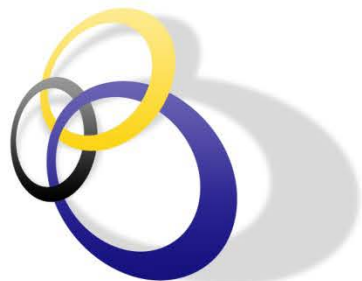
大阪府 地域包括支援センター 職員用手引き

3ステップで理解する 認知症 相談・対応のポイント



 大阪府

監 修：大阪大学大学院人間科学研究科
(社福)大阪府社会福祉事業団
OSJ 研修・研究センター
監修代表：佐藤 真一 (大阪大学大学院教授)
協 力：大庭 輝 (大阪大学大学院)
新田 慈子 (大阪大学大学院)



自立した生活

- 健康介護コンシェルジュ協会
- 日常会話式認知機能評価CANDy



健康介護コンシェルジュ協会

- セルフケア

自らの健康管理の知識と技能の獲得
特に、福祉用具の知識に力を入れている

- よろず相談相手

地域の高齢者を支える



「健康介護コンシェルジュ検定」



検定3級の流れ

●テキストブックで勉強します

※教材のご購入についてはパンフレット裏面をご覧ください。

●Web検定申込〈受検料:4000円〉

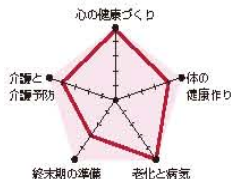
申込み:一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会
info@k-k-concierge.or.jp
FAX 06-7505-3552

① 検定料の入金確認後、アクセス先とIDとパスワードをメールかFAXでお知らせします。※ブラウザはインターネットエクスプローラーを使用します。

② 24時間、自分の好きな時間にWebで受検できます。(PCの無い方は問題集で受検)

③ Web検定は60分間。
25問を各三択式で回答します。

④ Web検定終了後、70点以上を合格点として、チャートで合否が表示されます。



⑤ 一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会では、合否を確認し、合格者には認定証書、認定バッジをお送りします。



教材のご案内

公式テキストブック & お助けハンドブック

セットで **2500円** + 梱包送料 × 消費税

申込み:株式会社ど〜も
info@do-mo-do-mo.com FAX06-7505-3552

関連講座の開催

一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会では、健康と介護、医療の関係理事がいます。人数がまとまれば、検定の事前講座も受け付けています。



一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会

info@k-k-concierge.or.jp
事務局:株式会社ど〜も内
〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-7-20-1312
電話 06-7505-3551 FAX06-7505-3552
<http://k-k-concierge.or.jp/>

【事務局】株式会社ど〜も
<http://do-mo-do-mo.com> info@do-mo-do-mo.com

健康と介護の
「よろず相談役」になりませんか?

健康介護 コンシェルジュ[®] 検定 **3級**

活躍の場は
無限大

個人の
受験者も
大歓迎!

健康寿命を
延ばしたいと
思う人も!



一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会

健康介護コンシェルジュ®は 健康と介護の「よろず相談役」

健康寿命を延ばそう

日本は現在、超高齢社会を迎えています。毎年1兆円ずつ増える医療保険や介護保険は国の財政を圧迫し、破綻を招きかねない情勢になっています。それを避けるためには、個人々が自助努力によって健康寿命を延ばし、介護期間をできるだけ短くしなければなりません。それには、健康寿命を延ばし安心できる終末期を迎えるための正しい知識の習得が必要であり、身近に相談できる相手が必要です。「健康介護コンシェルジュ®」(健康と介護のよろず相談役)はそうした役割を担います。そして、この活動が、これからの社会に自助・互助・共助・公助の連携を生むことを目指します。

受験対象

個人の受検者も大歓迎

健康から医療、介護に至るまで、それぞれの分野には専門の有資格者はたくさんいます。しかし、現状はそうした有資格者は別々の場所に存在し、健康から介護までトータルに相談できません。「健康介護コンシェルジュ®」は、それらの有資格者の能力を軸にして、高齢者への健康支援から終末期、介護に至るまでの“よろず相談役”として、相談を受けることができる資格です。

もちろん健康への意識が高く介護にも備えておきたい、という一般の方にも受検いただきたいです。

活躍の場は無量大

高齢者が日常通い慣れている大型ショッピングセンターや大型量販店、デパート、保険調剤薬局、OTC薬局、ドラッグストア、介護ショップ、家電店、ホームセンター、コミュニティ広場、コミュニティカフェ、コンビニなどにおいて「健康介護コンシェルジュ®」がいれば高齢者はずいぶん助かります。また、各市町村の地域包括支援センターとの連携も取りやすくなります。

そして、健康介護コンシェルジュサービス導入は、各お店や企業においてもビジネスチャンスは高まると同時に社会的使命を果たす一助になります。

健康介護コンシェルジュ® 公式テキストブック & お助けハンドブックのご紹介

健康寿命を延ばす知識と技能 基礎編

公式テキストブック

検定試験はテキストブックから問題がでます。5つのカテゴリー(心の健康づくり、体の健康づくり、老化と病気、終末期の準備、介護と介護予防)それぞれ5つのテーマを紹介しています。



A5判、175頁



検定3級・2級・1級

①「健康介護コンシェルジュ®」検定3級

健康から終末期、介護まで幅広く基礎的な知識の習得を行う。
受験資格:健康や介護への意識が高い人から有資格者まで。

②「健康介護コンシェルジュ®」検定2級

受験資格:「健康介護コンシェルジュ®」検定3級合格者。
さらに健康・介護の知識を深めて、“よろず相談役”としてアドバイスできるまでの知識を習得したい方。

③「健康介護コンシェルジュ®」検定1級

受験資格:「健康介護コンシェルジュ®」検定2級合格者。
1級合格者を「健康介護コンシェルジュ®」として資格認定します。お店などにも看板、ネームプレートを掲げることができます。
※認定者及びお店への情報発信を充実させ、本格的な「健康介護コンシェルジュ®」の役割を担うサポートをします。

困った時の役立つ1冊 資料編

お助けハンドブック

「健康介護コンシェルジュ®」(よろず相談役)としてはテキストブックだけでは不十分です。その不足を補うため「お助けハンドブック」を用意しています。

〈内容〉緊急時の便利情報、高齢者便利グッズ、簡単なケア&使い方、介護保険の基礎知識、「困った時の相談窓口」[ことば事典(623語)]など。



A5判、271頁



日常会話式認知機能評価 CANDy

Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction

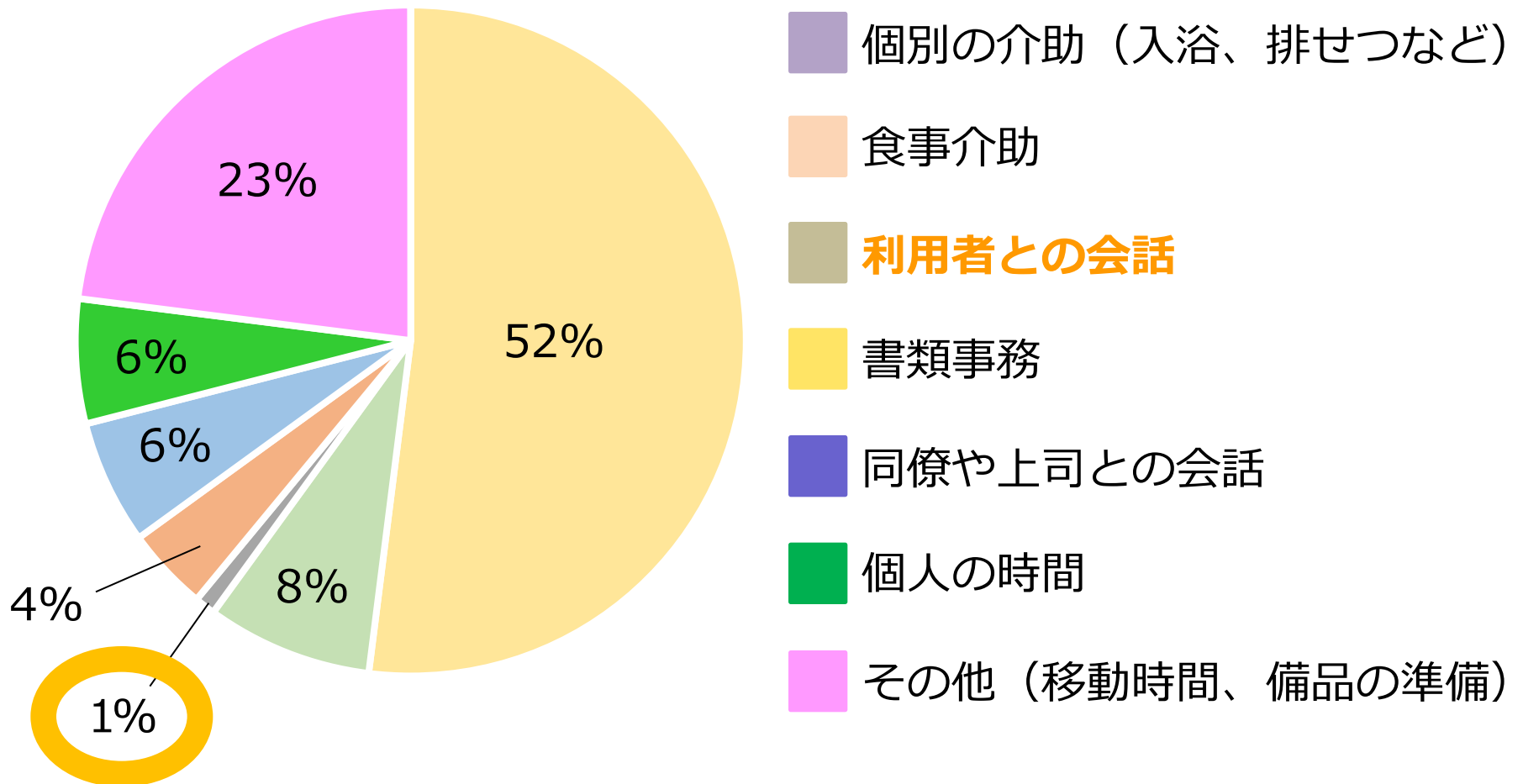
世界で初めて！ 知能テストをしない認知症検査を開発
日常の自由な会話の中に現れる会話の特徴を評価する

例（全15問）

- ◎ 同じことを繰り返し質問してくる（記憶障害）
- ◎ 質問に答えられず、ごまかしたり、はぐらかしたりする（取り繕い）
- ◎ 話を早く終わらせたいような印象を受ける（意欲の低下）
- ◎ 会話の内容が漠然としていて、具体性がない（喚語困難）
- ◎ 平易な言葉に言い換えないと伝わらないことがある（単語理解障害）

大庭輝・佐藤眞一・数井裕光ほか（2017）日常会話式認知機能評価（Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDy）の開発と信頼性・妥当性の検討. 老年精神医学雑誌, 28, 379-388.
Hikaru Oba, Shinichi Sato, Hiroaki Kazui, et al. (2017) Conversational assessment of cognitive dysfunction among residents living in long-term care facilities. *International Psychogeriatrics*, DOI:10.1017/S1041610217001740

介護職員の業務時間の比重



会話マニュアルで認知症者の孤独を解消



The screenshot shows a web browser window displaying the homepage of the CANDy project. The browser tabs include 'CANDy (日常会話式認知...)', 'こころみ', and '学会誌 - 日本老年行動科...'. The address bar shows 'cocolomi.net/candy/'. The page title is 'CANDy (日常会話式認知機能評価) 公式ホームページ'. On the right, there is contact information: 'お問い合わせ TEL 03-6432-56045 (株式会社こころみ) 平日 9時~18時'. The main content area features a large image of colorful, round candies. Below the image, there is a paragraph of text: 'このホームページは大阪大学大学院人間科学研究科臨床死生学・老年行動学研究室が中心となって開発した、日常会話式認知機能評価(CANDy; Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction)について紹介しています。' To the right of this text is a search bar with a '検索' button. Below the search bar is a section titled '最近の投稿' (Recent Posts) with a single entry: 'CANDy公式ページを公開しました' (CANDy official page has been published).

<http://cocolomi.net/candy/>

からダウンロードできます (要登録)